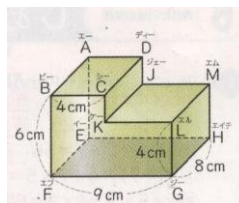
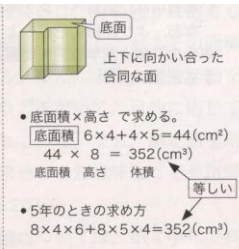


月日 (校時)	単元名	教材名
6月24日 (月) 5校時	角柱と円柱の体積	角柱と円柱の体積を考えよう
本時のねらい 本時 (4/5) ○直方体を組み合わせた図形の体積も、角柱と見て、底面積×高さの式で求められることを理解する。		
評価規準 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">技</div> <div>角柱とみることにより、既習の公式が適用できることに気づき、活用することができる。(発言・ノート)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関</div> <div>角柱とみることにより、既習の公式が適用できることに気づき、既習を活用する良さを認めている。(観察・ノート)</div> </div>		
学習過程	学習活動 (○発問・予想される児童の反応)	キーワード 留意事項・評価
【導入】 1 3 : 5 5	○これまでの学習を振り返りましょう。 ・円柱も角柱も、底面積×高さの公式で体積を求めました。	円柱 角柱 体積 底面積×高さ
【展開】 問題提示 1 3 : 5 7 問いの共有 課題把握 1 4 : 0 0	<p>1 問題を読む。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 右の図のような立体の体積の求め方を考えましょう。 </div>  <p>○これまでの学習を思い出し気づいたことを発表しましょう。 ・5年生のときは、2つの直方体に分けて計算しました。</p> <p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「底面積×高さ」の公式を使えるか話し合い、立体の体積を求めよう。 </div> <p>一人学び (7分)・班学び (5分)・学び合い (10分)・まとめ (3分)・振り返り (3分) 「キーワードを使って説明する。」</p> <p>○これまでの学習から解き方の見通しを立てましょう。 ・底面積×高さの公式を使えば、求められます。 ・上下に向かい合った合同な面を底面積として計算し、高さが等しくなるところをかけると良いです。 ・縦×横を計算すると底面積が求められるので、それに高さをかけて考えると良いと思います。</p> <p>3 体積の求め方を考える。 ○今までの学習を振り返って考えてみましょう。</p> <p>4 公式を使った体積の求め方について話し合う。 ○計算の仕方を説明しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">  </div> <p>・5年生のときに学習した求め方と答えが等しくなる。 ・答えが同じだから公式が使える。 ・底面を見つけて角柱の公式に当てはめると求められる。 ・公式を使うと早く計算できる。</p>	直方体 ・分けて計算する方法や全体の体積から引いて計算する方法があったことを確認する。 ・どの面を底面とみると良いかを考えさせる。 ・直方体を組み合わせた図形の体積を求めるのに、「底面積×高さ」の式が使えないか考えるという課題を捉えさせる。 ・グループリーダーに各班でできたことを説明させ、共有する。 ・「底面積×高さ」の公式に当てはめて求めた体積を、第5学年で求めた体積と比べて話し合わせる。 技 角柱とみることにより、既習の公式が適用できることに気づき、活用することができる。(発言・ノート)
・シラバス ・言語わざ ・見通し 1 4 : 0 5 解決活動 ・1人学び 集団解決 ・班学び ・学び合い 1 4 : 1 7 ・考察 1 4 : 2 7	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 立方体を合わせたような立体の体積も、角柱とみれば、「底面積×高さ」の公式で求めることができる。 </div>	
まとめ 1 4 : 3 0		
【終末】 振り返り 1 4 : 3 2 適用問題 1 4 : 4 0	<p>5 学習したことを振り返る。</p> <p>6 適用問題に取り組む。(P.79 △4①②)</p>	関 角柱とみることにより、既習の公式が適用できることに気づき、既習を活用する良さを認めている。(観察・ノート)